

|      |          |
|------|----------|
| 評価領域 | 特色ある教育課程 |
|------|----------|

|      |                           |
|------|---------------------------|
| 重点目標 | 「地域と共に育ち、地域に貢献する学校づくりの推進」 |
|------|---------------------------|

|     |   |
|-----|---|
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・恵まれた自然環境や地域の優れた人材（アップルサポーター）を活用した本物の体験や交流及び共同学習をはじめとする地域学習を積極的に展開している。</li> <li>・全校及び学部単位で商店街等の花いっぱい運動や清掃活動、育てたりんごのプレゼント、リンゴレンジャー公演による交通事故やいじめ防止を呼び掛ける地域貢献活動に取り組んでいる。</li> <li>・小規模校の強みを生かした全校縦割り活動として、りんご栽培、全校体力づくり、全校清掃（ピカピカタイム）を行っている。</li> <li>・障がい児入所施設東山学園生が3割程度在籍している。発達障害を併せ有したり、家庭・養育環境に課題のあったりする児童生徒が在籍しているため、関係機関との連携が不可欠である。</li> </ul> |
|-----|---|

|        |  |
|--------|--|
| 具体的な目標 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「学校は小さな社会、地域は大きな教室」を合言葉に、コロナ禍を考慮しながら、地域学習を年間指導計画の中心に据え、学校での学びを、変化する状況下で発揮する「本物の力」育む。</li> <li>2 地域のニーズと児童生徒の「やりたい」を重ね合わせた地域貢献活動を展開し、自己肯定感や社会的存在価値を高める。</li> </ol> |
|--------|--|

|            |   |
|------------|---|
| 目標達成のための方策 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域学習を系統的・発展的に計画するとともに、豊かな地域資源（自然・人・もの・文化等）を有効に活用する。</li> <li>2 児童生徒が地域に出掛けたり、来校者にアンケートを取ったりして、地域のニーズを把握して活動内容に盛り込む。</li> </ol> |
|------------|---|

|          |  |
|----------|--|
| 具体的な取組状況 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 - ①鹿角市からパラリンピックを盛り上げる活動の依頼を受け、全校で応援グッズや縄文土器の制作、高等部が採火式に参加した。</li> <li>1 - ②積極的にアップルサポーターを授業で活用し、りんご栽培、読み聞かせ、紫根染め、ダンス教室等、プロの技に触れた。</li> <li>1 - ③互いの交流のねらいが達成できるよう、事前に障害理解授業を実施した。今年度はパラリンピックが開催されたことから、ポッチャを通じた交流活動を増やした。</li> <li>2 小学部は校内での清掃活動を生かして初めて近くの自治会館内の掃除を行った。中学部は校内実習の一環として鹿角市総合運動公園の除草作業や落ち葉集め作業を計画した。高等部は鹿角警察署や鹿角市教育委員会から依頼を受け、鹿角市長と一緒に朝の声掛け運動に参加したり、保育園や小学校を訪問してリンゴレンジャー公演を通じて交通事故やいじめ防止の啓発活動に取り組んだりした。</li> </ol> |
|----------|--|

P

D

|      |  |  |
|------|--|--|
| 達成状況 | <p>1-①パラリンピック盛り上げ隊は、全面的にイベントに協力したことから、全校集会で鹿角市の担当者から感謝の言葉もらった。</p> <p>1-②アップルサポーターを年間20回以上、授業で活用できた。</p> <p>1-③交流及び共同学習は年間50回以上実施した。花輪ばやし中止に伴い、花輪中学校と新たに学校間交流及び居住地校交流を実施した。高校とは初めて両校を会場に交流を深めることができた。</p> <p>2 ゴミ拾い、除草作業等の奉仕活動を期待するという来校者の声を基に、学部単位で地域の清掃活動や花いっぱい運動に取り組んだ。</p> |  |
|------|--|--|



|      |  |   |
|------|--|---|
| 自己評価 | <p>(評価) A</p> <p>(根拠)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パラリンピックを盛り上げる活動は、報道で取り上げられ、児童生徒の存在価値を高めることができた。活動終了後、鹿角市からは作業製品を販売してほしい、聴覚支援学校からは大湯環状列石の案内をしてほしい等、新たな活動が生まれた。東京五輪・パラリンピック組織委員会より感謝状が届いた。</li> <li>・児童生徒はアップルサポーターの本物の技に触れ、教科書からは得られない本物の感動を味わい、生き生きと活動する姿が見られた。サポーターからは「子どもたちから元気をもらっている」という感想が聞かれ、障害理解につながっている。</li> <li>・商店街の清掃活動や花いっぱい運動、挨拶運動、リンゴレンジャー公演等の地域貢献活動が認められ、令和3年度鹿角市社会福祉協議会「会長賞」を受賞した。</li> </ul> | C |
|------|--|---|



|            |  |   |
|------------|--|---|
| 学校関係者評価と意見 | <p>(評価) A</p> <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でも予防対策をしながら、積極的に地域と連携や交わしている。今後も力を入れてほしい。継続は力なり。</li> <li>・ICT機器の導入でコミュニケーションの幅が広がっている。</li> <li>・進路実現に向けて関係機関と更なる連携をお願いしたい。</li> <li>・学校がこれまで培ってきたものを大切に、地域のネットワークの中に入り込んでいく。</li> <li>・共生社会を目指す上で、まだまだ障害に対する社会の認識が薄いと感じているので、社会へのアピールを強化していく。</li> </ul> | C |
|------------|--|---|



|                       |  |   |
|-----------------------|--|---|
| 自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策と特色ある教育活動の両立を図る。</li> <li>・「児童生徒が主役」を合言葉に、少ない支援を意識した授業づくりを通して、自ら考え行動する「考動力」を育む。</li> <li>・児童生徒の卒業後の生活が豊かになるように、在学中から関係機関と連携し、希望する進路の実現と生涯学習の充実を図る。</li> <li>・児童生徒の得意なことと地域のニーズを重ね合わせた地域貢献活動に加えて、地域協働活動を取り入れる。</li> <li>・かづの校の魅力を更に地域に発信して障害理解を推進する。</li> </ul> | A |
|-----------------------|--|---|